

東海旅客鉄道株式会社

平成25年6月3日

○ 名古屋駅新ビル(仮称)の概要

○ 中央新幹線計画について

- 計画の概要
- 二段階方式による整備
- 東海道新幹線との乗換
- 概略ルート、大深度地下利用
- 山梨リニア実験線、L0系車両

平成25年6月3日

東海旅客鉄道株式会社

名古屋駅新ビル(仮称)の概要

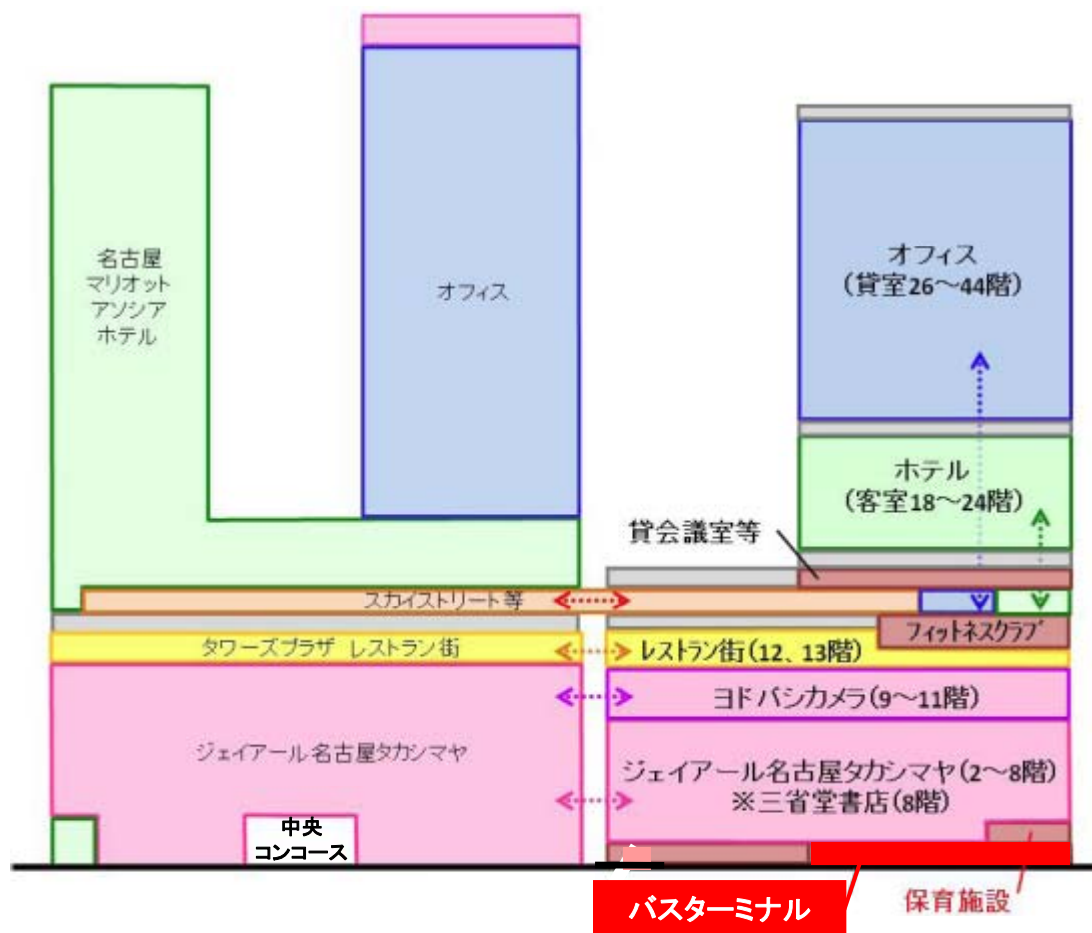
概要

○建物規模

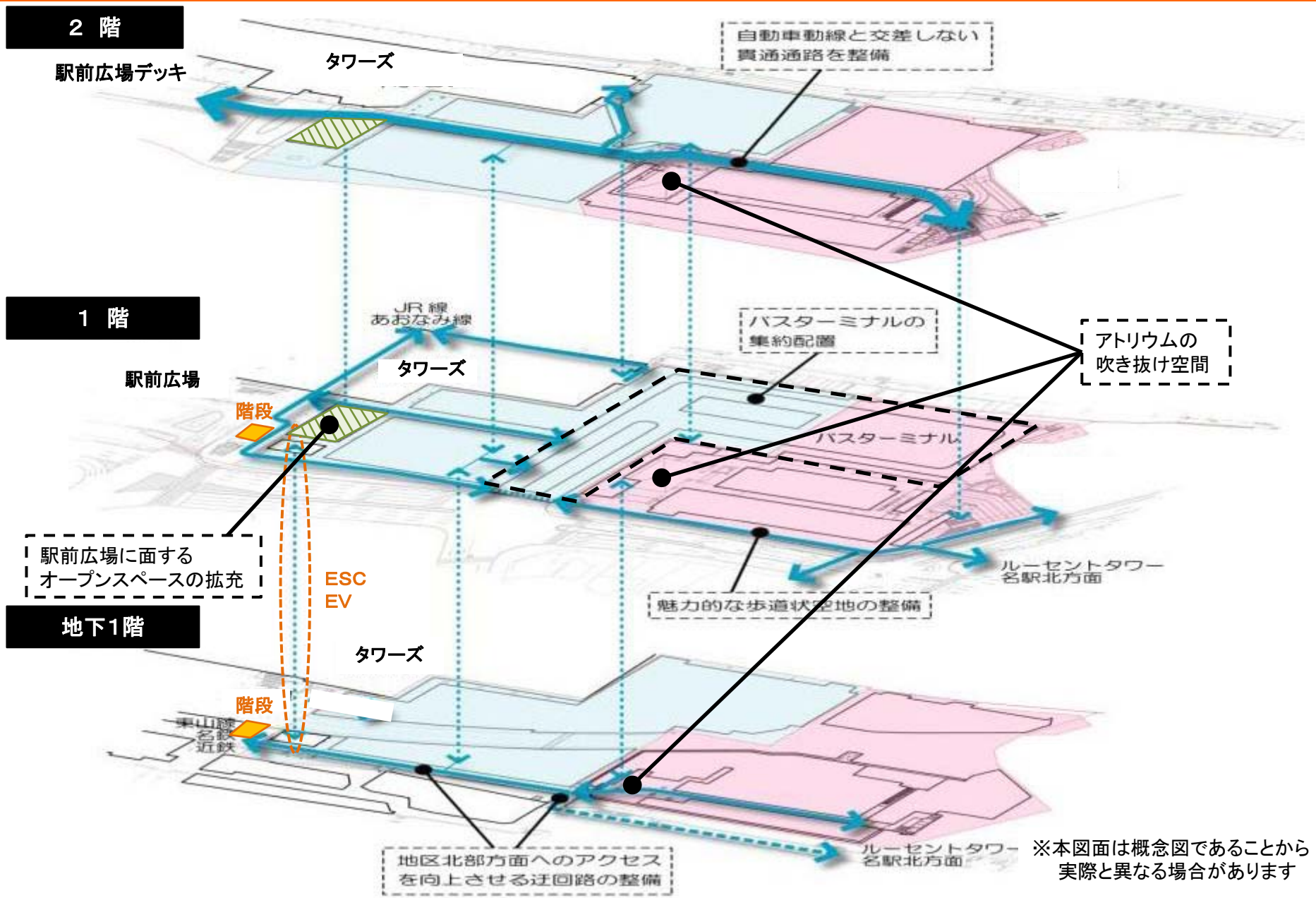
延べ面積 約26万㎡
高さ 約220m
地上46階、地下6階

○今後のスケジュール

H27年末 新ビル竣工、オフィス入居開始
H28年春 タカシマヤ、ホテル開業



名古屋駅新ビル(仮称)の概要 歩行者ネットワーク



※本図面は概念図であることから
実際と異なる場合があります

名古屋駅新ビル(仮称)の概要

イメージ

2F 貫通通路イメージ



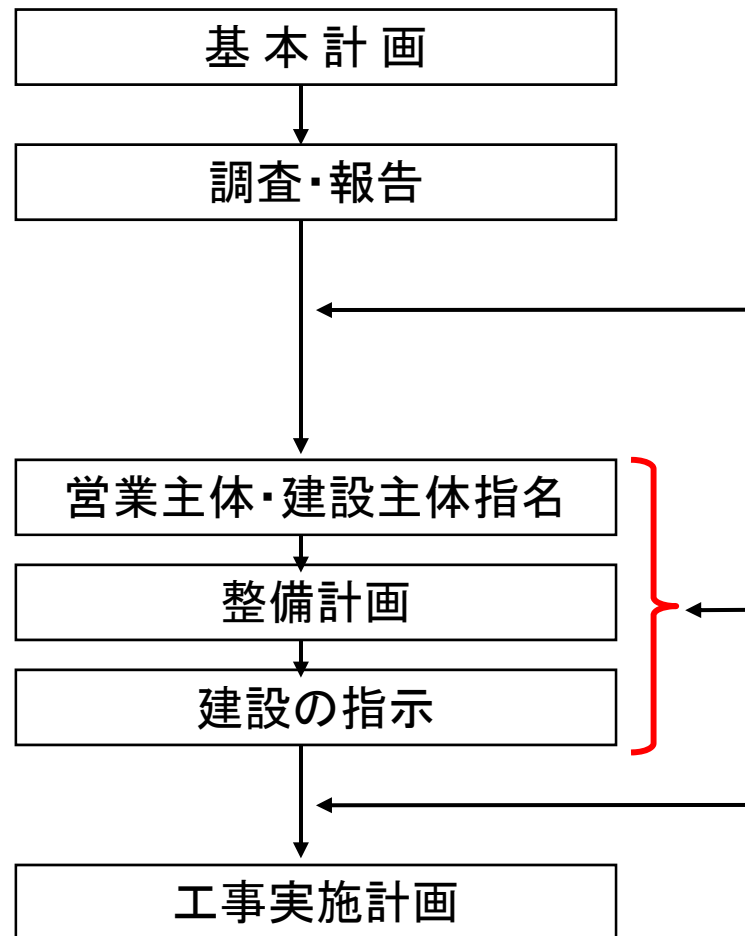
1F エントランスイメージ



全国新幹線鉄道整備法に基づき計画を推進

計画の概要

- 平成23年5月、国土交通大臣より当社に中央新幹線の建設指示が出されました。



交通政策審議会(中央新幹線小委員会)において1年2ヵ月(20回)にわたり審議された。

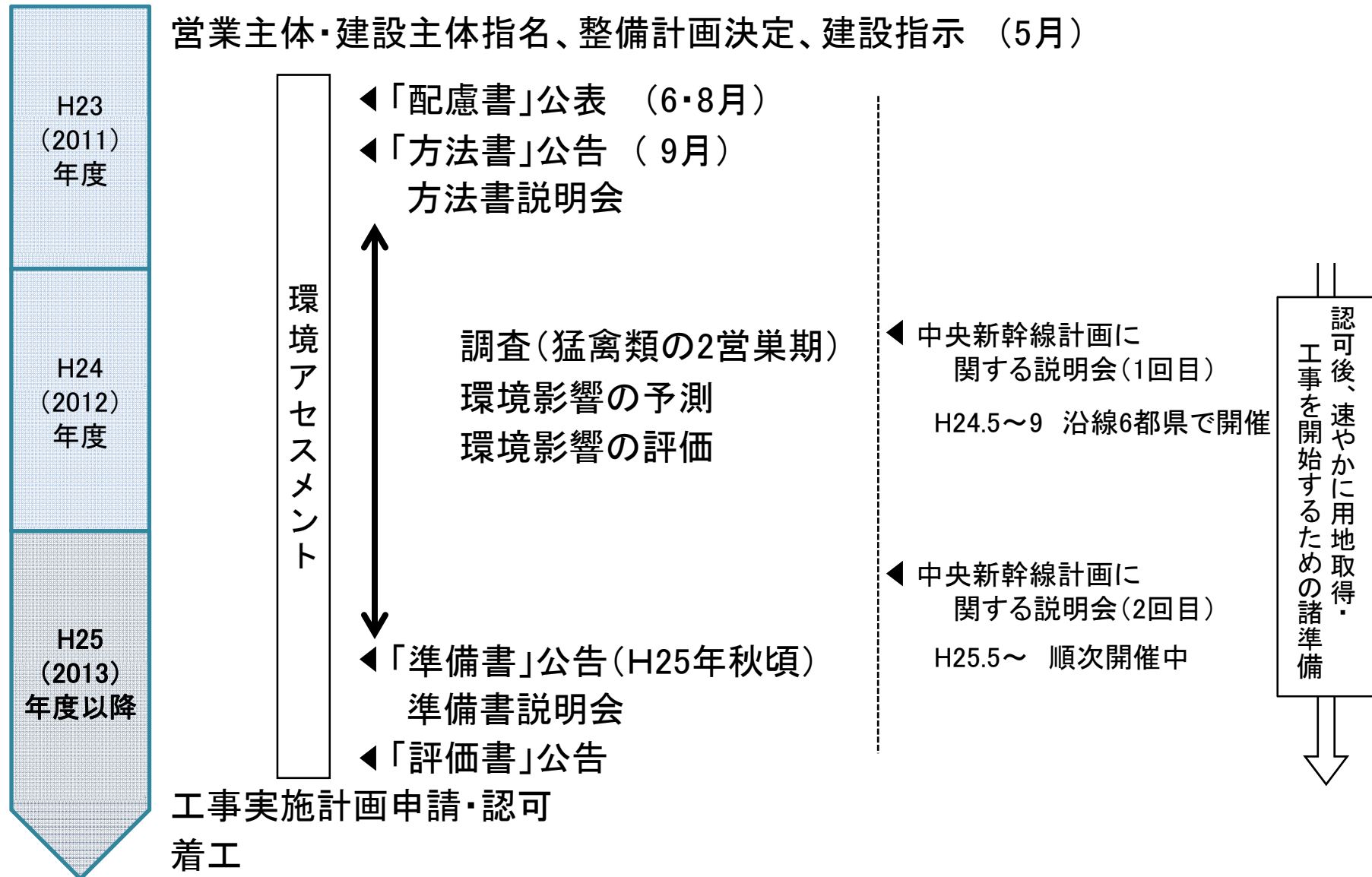
- ・ 超電導リニア技術
- ・ 環境保全
- ・ 費用対効果(建設費等)
- ・ JR東海の事業遂行能力
- ・ 東日本大震災を踏まえた影響 など

国土交通大臣が決定等

環境影響評価の実施

計画の進捗

計画の概要



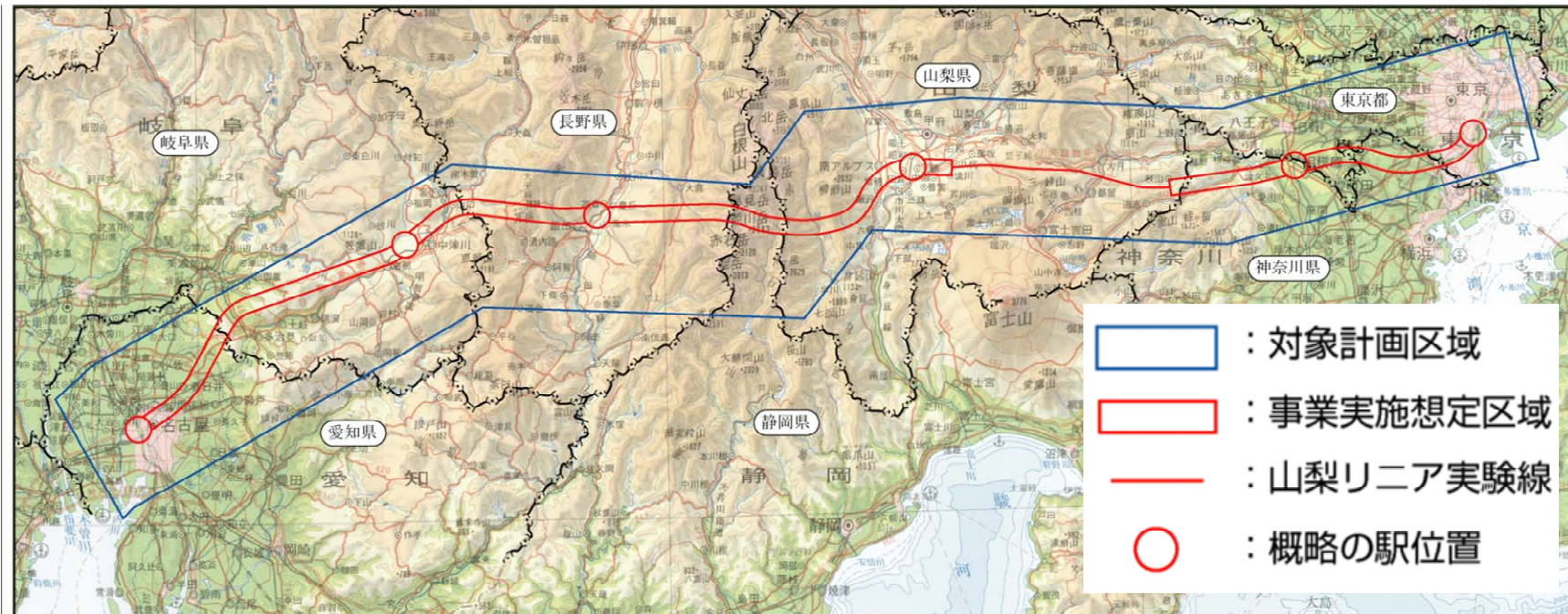
整備計画と概略の路線

計画の概要

整備計画の内容

建設線	中央新幹線	
区間	東京都・大阪市	
走行方式	超電導磁気浮上方式	
最高設計速度	505キロメートル／時	
建設に要する費用の概算額 (車両費を含む)	90, 300億円	
その他必要事項	主要な経過地	甲府市附近、 赤石山脈(南アルプス)中南部、 名古屋市附近、奈良市附近

概略の路線(東京都・名古屋市間)



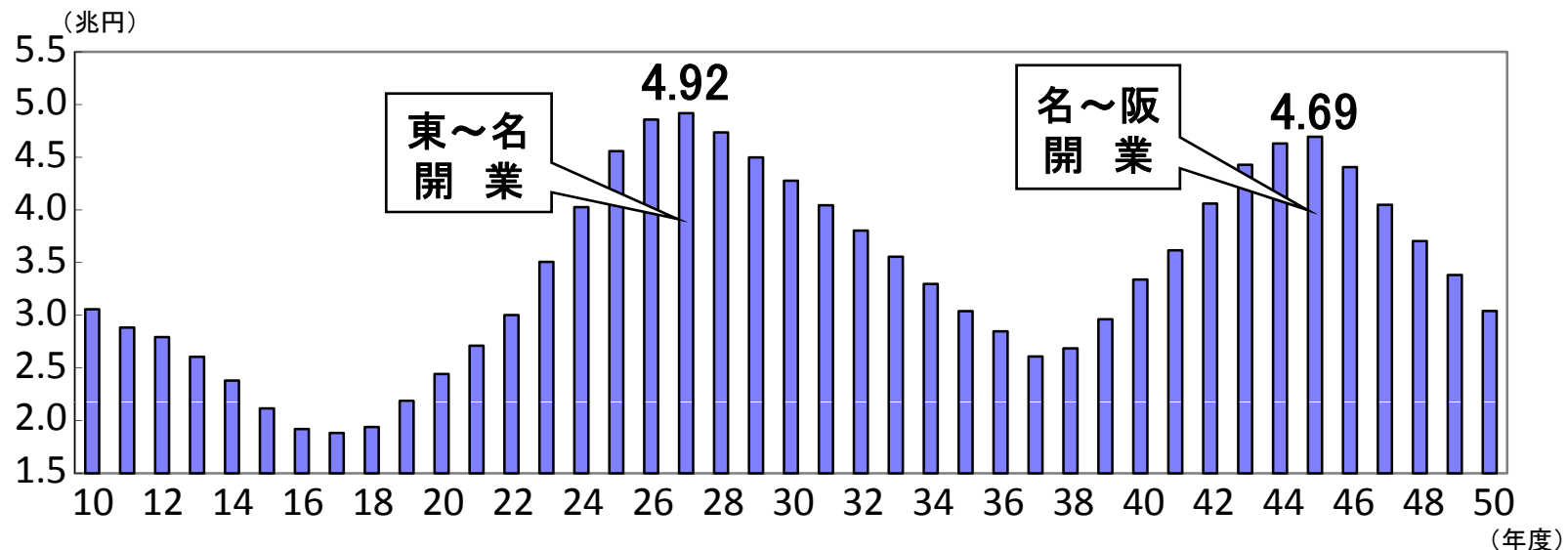
- ・ 建設段階から開業の前後を通じて、健全経営を確保しつつ、大阪まで自己負担で実施するためのポイント

名古屋開業は2027年(平成39年)、
大阪開業は2045年(平成57年)の二段階方式

- ▶ 第一段階としての名古屋開業後、経営体力を回復して速やかに大阪開業に取り組む。
- ▶ 名古屋開業段階において、東京－名古屋以西の利用者に対する利便性を高めるため、東海道新幹線との接続駅では、エスカレータ等の動線を工夫することにより、負担感のない円滑な乗り継ぎを確保する。

長期債務残高

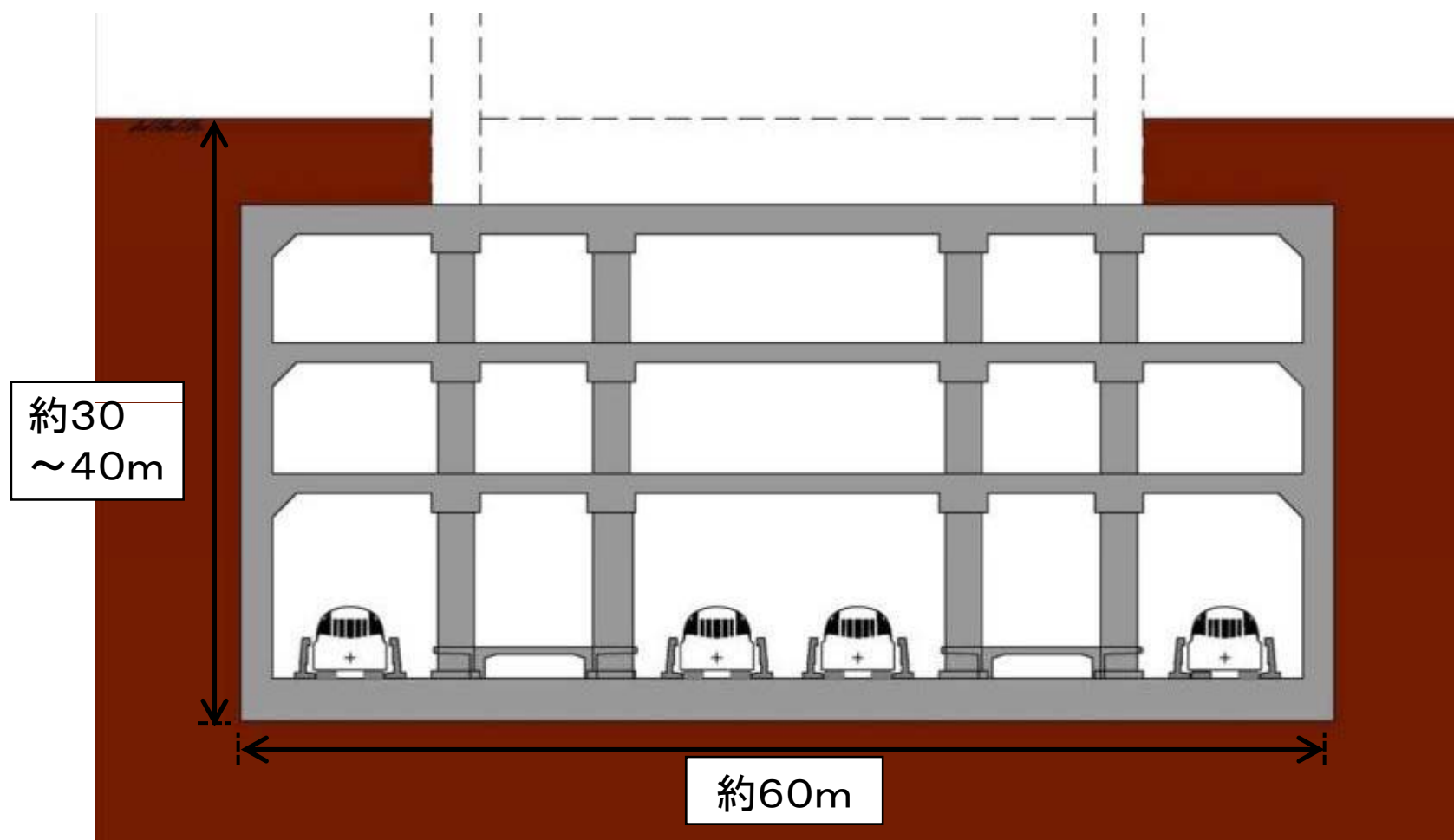
名古屋開業時及び大阪開業時の年度末には概ね5兆円の水準まで増加するが、その後は、減価償却費等を基に確保するキャッシュフローにより着実に縮減できる。



地下駅(名古屋市ターミナル)

東海道新幹線との乗換

- ・東海道新幹線との乗り継ぎを確保することが極めて重要であることから、東海道新幹線及び在来線名古屋駅付近の地下で、将来への延伸を考慮し、東西方向に設置。



中央新幹線と東海道新幹線との乗換

東海道新幹線との乗換

国土交通省交通政策審議会 第11回中央新幹線小委員会提示資料(2010.10.29)

〔当社の考え方〕

中央新幹線の効果を最大限発揮するため、東海道新幹線との円滑な乗換が必要不可欠

- ・可能な限り近く、浅い駅配置計画 ⇒ 移動時分は「3分～9分」と想定
- ・エスカレーター、エレベーターなど移動設備の配置、機能向上にも十分留意

試算結果： 3分～9分

- ・中央新幹線ホーム上の移動 20秒～3分20秒
- ・エスカレーター移動 2分20秒
- ・東海道新幹線ホーム上の移動 20秒～3分20秒

〔参考〕※同条件で試算

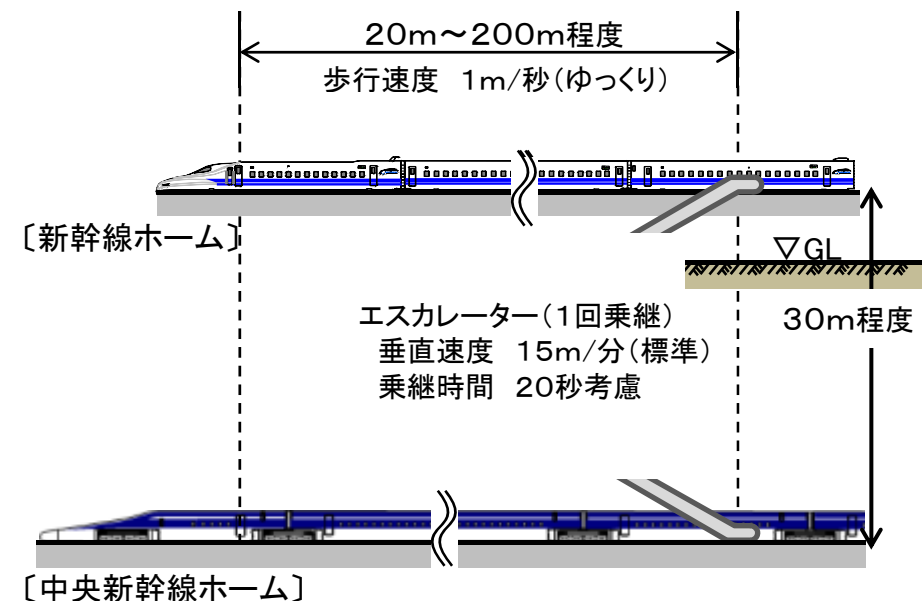
○東京駅

東海道新幹線 ⇄ 横須賀線 : 7分 ~ 12分
(水平距離 300m~550m程度、高低差 30m程度)

東海道新幹線 ⇄ 京葉線 : 10分 ~ 17分
(水平距離 400m~850m程度、高低差 40m程度)

○羽田空港国際線ターミナル

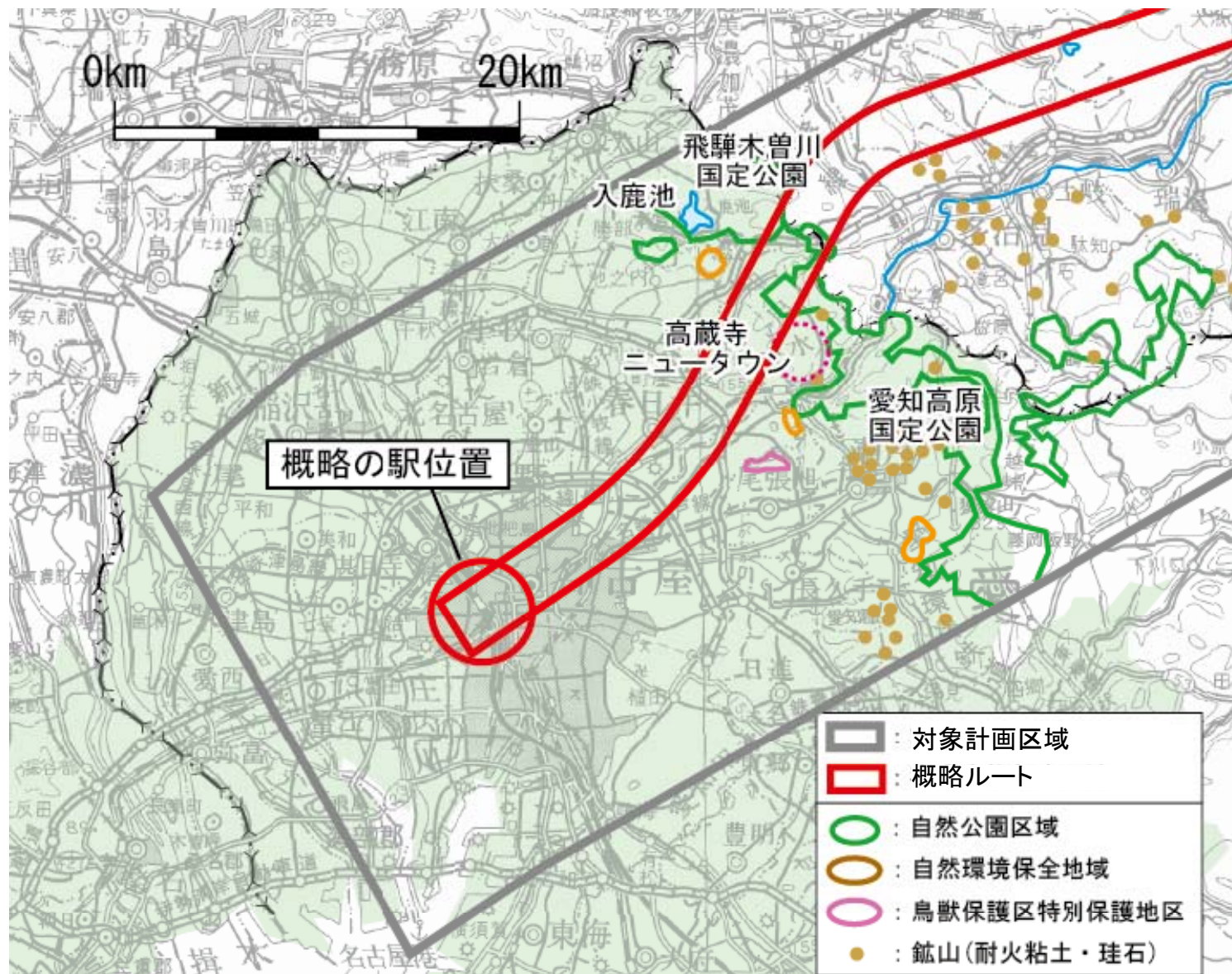
チェックインカウンター(3階) ⇄ 京急線(地下2階): 4分 ~ 8分
(水平距離 150m~350m程度、高低差 20m程度)



余裕時分を見ても15分後に接続列車を設定すれば乗継は十分可能

中京圏の概略ルート(大深度地下利用)

概略ルート・大深度地下利用



大深度地下使用法対象地域

L0(エル・ゼロ)系車両により走行試験再開

山梨リニア実験線・L0系車両



昨年11月、先頭車2両、中間車3両の計5両の車体を搬入
本年9月を目途に、L0系車両により走行試験を再開

※L(エル)は、リニア(Linear)を表しています。

O(ゼロ)は、新幹線と同様、営業線仕様の第1世代の車両を表しています。